

UP1 UP-1

UP1 ゆうびいいち

UP-1. フランスは、1958年軍事用プルトニウム生産炉の燃料の再処理をするため、マルクールに再処理工場UP-1を稼働させた。これがフランスの再処理の本格的始まりである。1976年からUP-1はフランス核燃料公社（COGEMA）により、ガス冷却炉（GCR）の再処理施設として運転された。処理能力は年間、天然ウラン400 t で、1997年9月に運転を終了した。この間の処理量は、18200tであった。その後、天然ウラン用のUP2（1997年1月停止）、濃縮ウラン用のUP2-400（UP2-800に移行）、UP2-800、UP3（海外顧客用）及び高速炉燃料用の施設を建設している。

<登録年月>

2003年03月
